



# かどや通信

第49号

発行日：令和4年3月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

## 二月のかどやは桜色！ 平和祈る陽光桜が満開！

二月のかどやは、桜色に染まっていた。玉城町在住の草木染作家・高野葉ヨウさんの作品展「高野葉 陽光桜染展」が開かれ、通常の展示会場である一階全室に加え、一階の座敷にも陽光桜で染めた反物が飾られ、春を思わせる柔らかな桜色におおいつくされた。

展示の副題「平和に色があるなら、それは桜の色だ」と思うところがあるように、ヨウさんが染めた陽光桜は、愛媛県東温市の故高岡正明さんが平和のシンボルとして約三十年の歳月をかけて品種改良した桜である。当時青年学校の教員だった高岡さんは第二次世界大戦で戦死した生徒たちの冥福を祈り、戦地となった極寒の地でも酷暑の地でも咲く桜を誕生させた。その遺志を引き継いだ息子の照海さんは、陽光桜を世界二十七カ国に無償で送り、今では国内外で十八



万本が咲くという。ヨウさんは、高岡さんの思いに感銘し、平和の祈りを込めた陽光桜の存在を広めようと五年前から陽光桜を使った染物作りに挑戦。枝葉を使って染料を抽出し、幅一メートル、長さ十から十二メートルの麻や木綿、絹等を淡いピンク色に染め上げた。

ヨウさんの作品は、愛媛県と三重県の美術館で展示されたが、古民家での展示はかどやが初めて。反物だけでなく、実用的なショールやブラウスドレス等十五点に加えて、ヨウさんが撮影した陽光桜の写真八点と書二点も展示された。「染め物だけでは伝えきれない」と思い、写真でその姿を見ていただき、書には思いを込めました」とヨウさん。また、会場にはヨウさんの友人たちが折ってくれた折鶴や桜の花も多数ちりばめられていた。陽光桜は濃いピンク色が特徴で、折り紙は濃淡の差はあるものの、すべてピンク色。かどやは文字通り桜色の館と化していた。

### 《誕生秘話を朗読で》

陽光桜が誕生した経緯は絵本「桜物語」(文溪堂、大西伝一郎著、たちよつこ絵)として出版され、平成十七年には映画化もされた。かどやでは二月二十日に「桜物語」の朗読会



も行われた。ヨウさんの朗読に、桜井理(ムト)さんが即興でピアノ伴奏をした。ヨウさんの語りを柔らかく包み、情景を彷彿とさせる澄んだ音色は秀逸で、参加者を陽光桜の世界にさらに深く引き込んだ。

### 《陽光桜の伝道師》

今回はヨウさんの陽光桜伝道師としての強い思いが会場に広がっていた。展示の飾りつけはかどやスタッフも加わり、ヨウさんの細かな指示のもと十人のサポートが丸一日かけて行った。伊勢和紙に印刷した一枚きりの桜の写真に添える「書」は、朝五時からの練習を積み重ねた賜物だ。朗読は、プロの指導を仰ぎ、早朝から自主練習も行った。展示にも朗読会にも随所にアーチストとしてのセンスとこだわりが光り、伝道師としての役割を果たしていた。

今回の陽光桜染展：四月七日～二十五日。玉城町の玄甲舎にて。朗読会は四月十日。こちらにも是非、ご参加を

## コロナ対策強化し 人気の味噌作りを実施

第八十三回かどや塾「マイ味噌を作る」が二月二十三日に開催された。紀北町の老舗・河村「ごじ屋」さんの味噌作りは今回で五回目となるが、常に大好評だ。

毎回参加希望者が多いため、午前九時から十時半からの二回に分けて実施している。今回も昨年以上の申込をいただいたので、「コロナ禍での更なる感染対策として、経験者は材料持ち帰りとさせていただき、初参加の方のみ受講していただいた。さらに、昨年同様の時短対策として、味噌作りの紹介ビデオ省略と、本来なら蒸し大豆を各自ですり潰すところから始めるのだが、大豆は「ごじ屋」さんですり潰したものを使った。



右の女性は大豆と糶を混ぜたみそ玉を空気を抜くため樽に投げつけているところ

これまで参加者はベテラン主婦ばかりだったが、今回は若い主婦や男性も加わり、質問も積極的に出て楽しげな雰

囲気の中で行われた。

一方、材料持ち帰り組は一年前に習ったとはいえ、おぼろげな記憶を一人でたどらなければならず「やっぱり一人で作るのはしんどかった」「大豆と糶をこねる大きなボールがなくて困った」等の「コメント」が寄せられた。事務局は「次回、申込が増えた場合は、午後も教室を実施し、全員がしかり実習できるように工夫します」と早速改善案を検討していた。

## かどやのひな祭りも実施

一月恒例の「かどやのひな祭り」も「陽光桜染展」と同時開催した。

「かどやのひな祭り」はこれまで一階に展示してきたが、今回は陽光桜染展が二階を使うため、明治期に作られたかどやオリジナルの御殿雛は、かつて飾られていた座敷に、陽光桜染と一緒に飾られた。また江戸期に作られた土路屋さんのお雛様一組は仏間に展示された。しかし、これまで玄関に飾られていた昭和初期の武蔵屋さんの御殿飾りは、御殿が老朽化で組み立てができず、残念ながら今年の展示は諦めた。

今回は、陽光桜染展を見に来る方がほとんどだったが、「こんな素敵

表情豊かな江戸時代の雛飾り



雛飾りは初めて見ました」と、江戸期や明治期の珍しい雛飾りに感激された方も多かった。

かどやスタッフは「雛飾りは陽光桜の影でかすんでしまうのではと心配していましたが、陽光桜染を見に来てくれた方々にも、昔の雛飾りを知っていた方が多く、意外な相乗効果を言っていました。

(注)写真の雛飾りは、百年近く長持ちの中に眠っていたという江戸時代の雛飾り。当時鳥羽の明慶川沿いで、伊勢・東豊浜土路地区の野菜を販売していた屋号・土路屋さん(洋菓子店・プランカさん)の「先祖」が所有していたもの。

## 軽くて丈夫！一閑張りの魅力 生徒さんの作品もスラリ

二月の展示は、今回が二回目となる「マチノヤヨイ一閑張り作品展」。初展示は令和二年七月で、同年十月からかどやで教室も開講した。その後、四日市市や津市、菰野町等でも

教室を開き、鳥羽市内でも昨年後半からもう一か所教室を開いており、伝統工芸の一閑張りの普及に貢献している。



今回は、様々な大きさの「かごバッグ」を中心に昔農家で使われていた背負いカゴやイモ洗いカゴ等十五点に加え、猫好きのマチノさんならではの猫の置物やイヤリング、ストラップ等も展示された。また、かどや教室をはじめ菰野町教室など他教室の生徒さんたちの作品も約二十点が展示された。中には、和紙ではなくレース等の布地を使っているものもあり、見学者の目を楽しませていた。

一閑張りとは…元々は農家で収穫時などに使われていたカゴ等を修復する技法で、物を大切に使う先人の千恵の産物だ。竹カゴなどに和紙を張り重ね、柿渋で仕上げの伝統工芸品で、柿渋を塗ることで、防水・防霉・耐久性に優れており、バッグやインテリア等にも用いられている。



## 京都の料亭気分!? 繊細な職人技に舌つつみ!

チャンポンと炙り鯖寿司で人気の花清水さん(鳥羽三丁目)が「花清水・春のお便り」と題し「春のかどやのお庭を眺めながらホッと一息、気軽な京料理を楽しみませんか」とかどやの座敷で昼食会を催した。

花清水さんは京都の老舗名店で修行した後、長年大阪・堺市で会席料理店を営み人気を集めていた。鳥羽に移住後は、週四日チャンポンと炙り鯖寿司を提供し、近隣の人達を喜ばせている。その花清水さんが初

の試みとして、長年培ってきた京料理の腕をかどやで振るった。鯛、鱈、鯖、穴子、海老、かぶら、野沢菜の七種類の箱寿司を中心に、菜の花やタケノコ、ホタルイカ、木の芽等の旬の食材を使い、春の味を演出した。



箱寿司は、それぞれの食材に合わせて、その特長を存分に生かした細やかな味付けが食通たちを

うならせた。胡麻豆腐とホタルイカの酢味噌は、胡麻豆腐のころけるような食感と酢味噌の塩梅がなんとも心地良い。煮物椀は、伊勢えびの春真丈で、澄み切った出汁の中にタケノコ、菜の花、木の芽が添えられていた。口取りは、桜蒸し、出汁巻、筍の土佐煮等、春らしい細工を施した九点が並び、桜の花びらのように色付けされたゆり根も散らされており、まさに春の宝石箱のようだった。デザートは、自家製マーメイドと小豆が入った大人の味の甘酒ムースで締めくくった。

今回は密を避けるため、午前十一時半と午後一時からの2部制で、定員は各十名。今回は定員には満たなかったが、参加者は大満足の様子。また、ほとんどが顔見知りだったこともあり、食後はマスクをした上で話が弾み、のどかな時間が流れた。

花清水さんは「かどやさんの庭を見ながら京風の味を楽しんでいた。だきたいと思っていましたので、実現できてよかったです。季節毎にこのような催しができれば」と話す。参加者は「旅行がしづらい時期に、地元で京都の料亭の味を楽しめて、

よかったわ。次回も楽しみ!」と話してくれた。

【記者の舌】花清水さんの炙り鯖寿司を初めて口にした時、「な、な、なんと美味な!」と感激したが、今回の箱寿司も、ひとつ一つに丁寧で繊細な職人技が光っており、「参りました」。鳥羽なかまちでこんな味に出会えるとは感謝感激。

次は、皆さんも参加されませんか?

### 春色コーデに心ほっこり

第二十二回まゆみ塾が「早春のテーブルを楽しむ」と題して、二月二十六日に開催された。

ウエルカムドリンクには月桃(ゲッケン)とレモングラスをブレンドしたハーブティーが出された。月桃は沖縄や奄美大島などに群生するショウガ科の植物だ。抗菌、消臭等の効果があり、赤ワインの三十四倍ものポリフェノールが含まれていて抗酸化作用が注目されている。まゆみさんは「月桃にはリラックス効果もありますので、「コロナ禍で委縮した心と体をリラックスしていただきたい」として「WELCOME」。



テーブルセッティングは、桃の節句にちなんで重心に帰ってもらおうと、デミタスサイズのカップで可愛くアレンジした。

フラワーアレンジメントは二月が例年より寒い日が続いていたので、早春をイメージした花を考えていたそうだが、週末には気温が急上昇するとの天気予報がでたため、直前に急遽ストピーやゆきやなぎ、キンポウゲ等、当初予定したものより、さらに春らしい花に変更した。器選びも、気温の変化に対応した質感のものを選ぶよう、改めて推奨した。

月桃入りのハーブティーに始まり明るく柔らかな春色の花とテーブルコーデで、参加者はすっかり春気分を満喫した様子。「コロナ禍のストレスからも癒されたようだった。



あっぱれ！鳥羽小六年生！！  
わが町の賑わいを演出！



鳥羽小学校六年生が企画した「九鬼ロゲイング」が三月十二日に行われ、九時十五分過ぎからなかまち界隈に久しぶりに大勢の

家族連れがやって来た。

ロゲイングとは、チームを組んで、各所に設置されたチェックポイントを制限時間内に行けるだけ多くまわり、得点を競うスポーツだ。鳥羽小六年生は、地元の人達に町の魅力をもっと知ってもらおうとロゲイングの手法を使ったイベントを企画。約一ヶ月をかけてルール作りや町の

下調べを行い、旧鳥羽小学校を起点に鳥羽駅のある二丁目から四丁目に二十六カ所のチェックポイントを設けた。時間は午前九時から十一時半までで、参加者はチェックポイントに到着すると、その場所に関するクイズに答え、証拠写真を撮って速やかに次の場所へ移動する。時間の制約があり、かどや内をじっくり見学してもらった時間はなかったが、「鳥羽にこんなところがある」とは知らなかった。また、ゆつくり来ます」というグループも。

今回は百四人が参加しかどや界隈も大いに賑わった。「町に活気が溢れるいい企画」とかどやスタッフも絶賛した。



◆◆貸部屋の案内◆◆

かどやを有効に活用していただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご利用ください。詳細は、かどやへ。

電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 令和4年度会員募集中！

かどや保存会は、歴史的な文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

平成30年度は会員数が351名に達しましたが、残念ながら以後毎年減少しております。しかし、コロナ禍にも関わらず、令和3年度は3月末現在で269名の方から新規や継続のお申込みをいただきました。皆様からのご支援を心より感謝いたします。コロナの収束にはまだ時間がかかるものと思われそうですが、感染防止対策を強化しつつ、皆様の憩いの場所となるよう、これからも日々努力を重ねてまいります。令和4年度も引き続きご支援いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和4年度(令和4年4月1日～令和5年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

(1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

(2)銀行振込：郵便局 当座 かどや保存会 00850-4-151751